

気候変動に適応した 農業技術の確立と 効果的な社会実装

農業の生産現場では気候変動の影響により、水稻の品質低下、病害虫リスクの拡大、施設園芸における夏季高温障害や労働負荷増大が問題となっていることから、栽培体系の見直しや品種の育成など、気候変動適応技術を開発するとともに、生産者や普及組織などと試験研究機関が連携して、社会実装に取り組めます。

各場所の取組

農業・園芸総合研究所

◆園芸品目における気候変動適応技術



ブロッコリーの高温障害
(左が不整形花蕾)



施設内部への外気導入による効果的な昇温抑制方法の検証

古川農業試験場

◆高温に強い水稻品種の育成



高温登熟性が高く、品質を維持できる品種の育成・普及



ガラス室における高温登熟性検定

◆気候変動に対応した作物病害虫管理



斑点米カメムシ、麦類赤かび病、大豆のオオタバコガ等の防除技術の構築(温暖化に伴い被害拡大が想定される病害虫)

畜産試験場

◆気象災害に対応した牧草の栽培



気象災害に対応した牧草の栽培
(豪雨で流された牧草地)



牧草の品種適応試験
(牧草の夏枯れの様子)

現地実証

研究成果を現地へ普及させるため、普及センターと連携し、現地実証ほを設置



イチゴクラウン温度制御技術実証ほ場における定植作業

社会実装

- ・HPによる情報発信
- ・研修会、現地検討等の開催



研修会の様子

気候変動に適応した農業技術の確立